高知新聞

学生が嶺北で医療実習

大阪医大、薬科大 診察や検査体験

診察に訪れた患者と会話する大阪医科大の学生ら（大川村小松）

【嶺北】地域医療の充実に取り組む協定を県と結んでいる大阪医科大学（大阪府高槻市）と、同一法人の大阪薬科大学（同）の学生6人が、1日から5日間の日程で、長岡郡本山町の嶺北中央病院などでの地域医療実習に取り組んでいる。

大阪医大は昨年1月に県と医師派遣などに関する協定を締結。昨年度は嶺北中央病院に7人の医師を派遣し、本年度は高岡郡四万十町のくぼかわ病院に派遣している。

学生の実習派遣は今回が初めて。1日に本山町入りした看護学部の学生2人に続いて、3日からは医学部と薬学部の学生4人が合流しての実習が始まり、嶺北中央病院の病棟や外来診察、訪問リハビリなどを見学した。

学生らは週に3日、診察が行われている土佐郡大川村の小松診療所も見学。担当医師から「人口が少ないのでどの日に誰が来るのかが把握できる」「病院まで距離があるので救急の場合は搬送時間を常に考えないといけない」などと、へき地医療についての説明を受けた。実際の患者とのやりとりを見学したほか、診察や検査を体験した。

医学部6年の前田広太郎さん(31)は「診療所は医師と患者さんの距離が近く、(患者の)生活環境を知った上で薬を処方していたのが印象的。患者さんに寄り添う医療だと感じた」と話していた。

学生らは、本山町の汗見川診療所や大豊町の特別養護老人ホームなどを訪問し、最終日の5日には報告発表会を開く予定。

（仙頭達也）

2016年（平成28年）8月5日